

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">文献講読 I</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">文学部文財 2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">梯 信暁</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">仏教漢文の解説方法</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>日本撰述の漢文文献を解説するために必要な基礎知識の習得をめざします。今年度は、平安時代を代表する名著であり、仏教思想のみならず、文学・美術・芸能等諸方面に大きな影響を及ぼした源信の『往生要集』をとりあげ、いくつかの項目を抜粋して講読します。活字本をテキストとしますが、写本・版本などの紹介も適宜行う予定です。また、『往生要集』テキスト・書き下し文・現代語訳のデータ化をめざし、受講生にはコンピュータを用いて課題に取り組んでもらいます。</p>		
<p>評価方法</p> <p style="text-align: center;">課題発表 (80%) ・出席状況 (20%)</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">原典資料をプリントして配布します。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p style="text-align: center;">岩波日本思想大系『源信』</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">石田瑞鷹</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">岩波書店</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：講義の目標と内容の概説</li> <li>2. 『往生要集』諸本の紹介</li> <li>3. 叡山浄土教における『往生要集』の位置</li> <li>4. 『往生要集』の概要</li> <li>5. 『往生要集』講読①：観察門・別相観（華座観）</li> <li>6. 『往生要集』講読②：観察門・別相観（頭）</li> <li>7. 『往生要集』講読③：観察門・別相観（眉間白毫）</li> <li>8. 『往生要集』講読④：観察門・別相観（目と口）</li> <li>9. 『往生要集』講読⑤：観察門・別相観（上半身）</li> <li>10. 『往生要集』講読⑥：観察門・別相観（手足）</li> <li>11. 『往生要集』講読⑦：観察門・惣相観（総体）</li> <li>12. 『往生要集』講読⑧：観察門・惣相観（三身一体）</li> <li>13. 『往生要集』講読⑨：観察門・雑略観（白毫観）</li> <li>14. 『往生要集』講読⑩：回向門</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		